



泉紫峰さん(手前左)の踊り方を確認しながら八戸小唄流し踊りの練習をする学生たち

催し中止も所作心込め

八学大短大部 小唄流し踊り練習

八戸

八戸学院大学短期大学部(八戸市)で12日、八戸小唄流し踊りの講習が行われた。体育実技の授業の一環。幼児保育学科の1年生約80人が日本舞踊泉流師範の泉紫峰さん、泉彩菜さんの指

導を受けて郷土の踊りを学んだ。

同校は毎年7月に市中心街で開かれる催し「八戸小唄流し踊り」に参加してきた。今年は新型コロナウイルスの影響で催しは中止となったが、八戸市の伝統と魅力を再確認する意味もあ

り、感染防止に留意し、踊りの練習を続けることにした。

学生たちは体育館で、師範の優雅な所作をまねながら一つ一つの動きを練習。最初はぎこちなかったが、最後は曲に合わせて踊れるようになった。吉田寿美玲さん(19)は「手の動きや視線など細かいところに気を

つけた。心がこもった踊りができるようになりたい」と語った。

泉紫峰さんは「社会人になつてから流し踊りに参加する人もいる。八戸の伝統を受け継いでほしい」と、思いを述べた。

学生たちは今後も授業の中で繰り返し練習する。(近藤弘樹)